



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

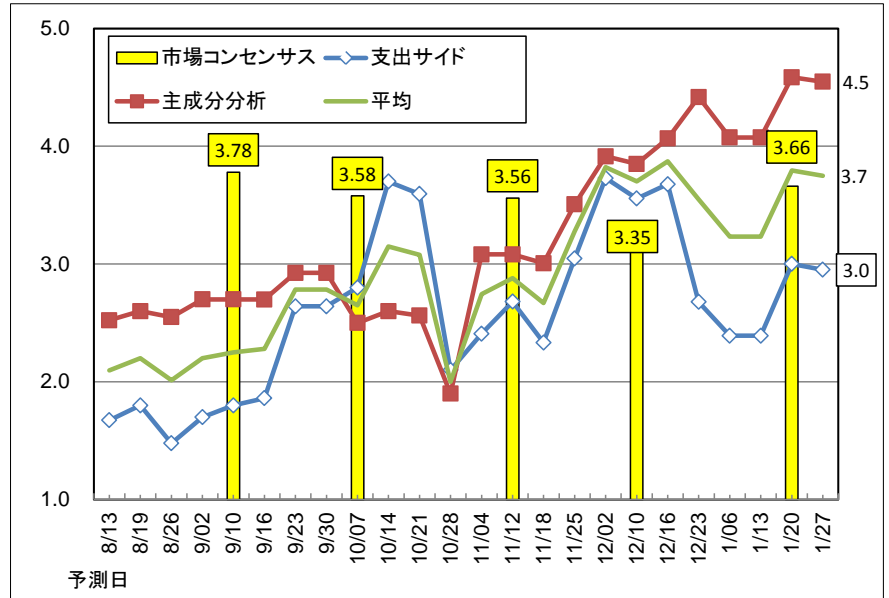
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年1月27日)

## ポイント

- ▶先週更新されたデータは、11月の鉱工業指数(確報値)、全産業活動指数及び景気動向指数(改訂値)である。これらは民間企業設備及び民間在庫品増加の予測に影響を与える。
- ▶11月の資本財出荷指数及び最終需要財在庫指数の確報値はいずれも速報値を小幅下回った。結果、10-12月期の実質民間企業設備と実質民間在庫品増加の予測値は先週から小幅下方修正された。
- ▶全産業供給指数をみると、10-11月の個人消費指数、民間企業設備指数の平均値はいずれも7-9月平均を上回っており、消費増税の前倒し需要の影響もあり、好調な景気の現況指標を裏付けている。
- ▶今週(1/20)の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.0%と予測。民間企業設備及び民間在庫品増加の予測値は小幅下方修正にとどまったため、成長率の予測値は先週から変化なし。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



### <10-11月期の産業活動指数は好調な景気の現況判断指標を裏付けている>

先週(1/20-1/24)更新されたデータは、11月の鉱工業指数(確報値)、全産業活動指数及び景気動向指数(改訂値)である。これらのデータは民間企業設備及び民間在庫品増加の予測に影響を与える。

11月の資本財出荷指数(確報値)及び最終需要財在庫指数(確報値)はいずれも速報値を小幅下回った。結果、10-12月期の実質民間企業設備と実質民間在庫品増加の予測値は先週から小幅下方修正された。

11月の全産業活動指数は前月比+0.3%上昇し2ヵ月ぶりのプラス。結果、10-11月平均は7-9月平均比+0.2%高くなっており、全産業活動指数は緩やかな拡大を示している。一方、輸入等を調整した全産業供給指数は前月比+1.1%上昇した。9-10月は前月比横ばいが続いたが、11月は3ヵ月ぶりのプラス。10-11月平均は7-9月平均比+0.9%となっており、産業活動指数は好調な現況判断指標を裏付けている。ちなみに11月の景気動向一致指数(2010年=100、改訂値)は前月比+0.3ポイント上昇し、110.7となった。3ヵ月連続の改善である。

全産業供給指数を需要項目別にみると、11月の個人消費指数は前月比+1.2%上昇し2ヵ月ぶりのプラス。また民間企業設備指数は同+0.2%上昇し8ヵ月連続のプラス。10-11月平均を7-9月平均と比較すると、個人消費指数は+0.7%、民間企業設備指数は+3.5%といずれも上昇している。消費増税の前倒し需要の影響もあり、個人消費、民間企業設備は好調である。

今週の支出サイドモデルは、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.0%と予測する。民間企業設備及び民間在庫品増加の予測値は小幅下方修正にとどまったため、実質GDP成長率の予測値は先週から変化なしである。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690